

安全な介護施設へ全力

提言

社会福祉法人「天童福祉厚生会」は、「明幸園」と「清幸園」の二つの介護施設を運営している。明幸園は大崎市南西部の矢野目地区に、清幸園は北西部の大清水地区に位置する。特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、訪問介護等の事業を行い、それぞれの利用者はいく百人を超えて、利用者が安全・安心な環境の中で心を豊かに自分らしく過ごせるよう職員一同、日々励んでいる。

社会福祉法人
天童福祉厚生会理事長

さとう みちたか
佐藤 通隆



安全・安心の確保に向けて、力を入れるべき内容を考

える機会が増している。その一つは、ウイルス対策である。これまでもインフルエンザやノロの感染などについて細心の注意を払い、予防に努めてきたが、世界にまん延する新型コロナウイルス感染症については、破格の対策を取りざるを得ない。3密の回避、ソーシャルディスタンスの確保、外部との接触制限などがある。利用者とその家族の理解を得ながら、面会の一定期間の中止や利用者の施設内での行動制限などを行っている。職員は職場のみならず、家庭でも最大限の危機意識を

持つて生活している。また気を緩めることなく、感染防止に全力で努めなければならぬと思うている。

そして、もう一つは防災対策である。7月末の集中豪雨で最上川が氾濫し、県内に多くの被害が出た。大崎市でも豪雨が続き、避難指示が出た。清幸園は最上川に合流する押切川が近くを流れ、市のハザードマップでは洪水時1層以下の浸水エリアに該当している。豪雨当時、最上川の水量増加や他市町の被害状況から、万一の事態が想定され、避難の態勢を取り始めるまでに

至った。

今回の防災用具の点検や訓練を地域の協力も得て定期的に実施してきた。これまでの訓練では、火災や地震、暴風雨などを想定した屋外避難や2階への垂直避難が主だった。しかし清幸園の立地状況や、近頃の異常気象を考えると、利用者の尊い生命を守るためには、敷地外への水平避難も訓練に加えることの必要性を痛感した。

このため、「防災の巨」の9月1日に合わせ、訓練を実施した。「東南村山地方に緊急発生、緊急連絡メールで高齢者避難開始の指示が出た」との想定で、明幸園への訓練を重ねて、いざという時に、迅速かつ的確な判断と行動が取れるよう努力していきたい。

この結果、参加利用者の身体的な負担状況や、訓練で要した時間、全員避難した場合の総時間の把握など、多岐にわたるデータが数多く得られた。

防災は備えの積み重ねが重要と言われる。今回の訓練を今後に生かし、これからも訓練を重ねて、いざという時に、迅速かつ的確な判断と行動が取れるよう努力していきたい。

感染防止気を緩めず ■ 防災の備え 水平避難訓練

(天童市在住)